

五葉地区計画

- 地域の協働・自然との共生による

新たな可能性 -

目次

はじめに	176
1 五葉地区の現状	176
(1) 位置及び区域	176
(2) 人口世帯構成の推移	176
(3) 歴史・風土	176
(4) 公共施設整備	177
(5) 産業	177
(6) 観光	178
2 これまでの五葉地域づくりの総括	183
(1) 実施期間	183
(2) 実施内容	183
(3) 実施事業の成果	184
3 これからの五葉地域づくり計画	185
(1) 地域の協働	186
(2) 自然との共生	187
3 最重点課題	188
4 地区計画策定の経過	189
5 地区計画策定委員	190

はじめに

この計画は、国道 283 号仙人峠道路の開通や携帯電話基地局の設置といった交通網や社会資本の整備が進むなど社会情勢の変化に加え、豊かな自然への誇りと郷土意識、高齢化・健康への不安、観光振興への期待、子育ての経済的負担軽減、などの地域の課題意識に基づき、平成 15 年 3 月に策定した「住田町総合発展計画後期基本計画」を継承し、今後 10 年間の総合的な地域づくりの方途を基本方針として整理し、期待される効果、振興上の留意点について策定したものです。

1 五葉地区の現状

(1) 位置及び区域

五葉地区は、住田町の東部、県立自然公園五葉山の北山麓に位置し、東方を釜石市、南方を大船渡市、北方を遠野市に接している。愛染山、五葉山に気仙川の源流を抱き、種山ヶ原と並ぶ観光地「滝観洞」を擁する地域である。五葉山麓に位置することから、沢沿いに集落が点在し、山間地の農村風景が広がっている。

(2) 人口・世帯構成の推移

五葉地区の人口については、昭和 60 年から平成 18 年までの約 20 年間の推移を見ると、町全体では 23.8%の減少となっているのに比し、五葉地区においては 654 人から 399 人の 39.0%と大幅な減少傾向を示している。世帯数は 31 区、32 区がほぼ横這いであるが、33 区においては急激な減少傾向を示している。

年齢構成を見ると、70 代の女性が多めで、20 代から 30 代の人口が極端に低い傾向がわかる。このことは、結婚して子どもを産む年代が少ないことから少子化になっている理由が顕著に現れている。(表参照)

高齢化率は町全体で 37.0%であるが、五葉地区は 47.0%であり、地区全体のほぼ半数が 65 歳以上という高齢化の進む地区である。一方、介護保険該当者は 65 歳以上で町全体では 15.8%だが、五葉地区においては 12.6%と低めである。また、虚弱・寝たきり・痴呆高齢者についても町平均より割合が少ないことから、高齢化率は高いが、元気な高齢者が多い地区とすることができる。

(3) 歴史・風土

昔は「^{かっし}甲子」と呼ばれた地区であった。五葉山にちなんだ五葉小学校の名称から五葉地区と呼ばれるようになった。藤原時代から産金が行われ、昭和初期まで採掘が行われた坑道がある。五葉山の檜は平泉の伽藍や支倉常長の遣欧使節船の建造に用いられ、そ

の皮は火縄銃の火縄の原料となり、巨大鉄砲藩伊達家を支えた。地域資源は、自然の産物である岩魚や北限の日本鹿、天然記念物のカモシカ、猿、熊、など野生動物の宝庫である。観光資源では滝観洞や五葉山、町指定文化財・檜山阿弥陀堂などがあり、鉄砲隊などの人的資源も有している地区である。

(4) 公共施設整備

県道・町道

五葉地区における町道の路線は9路線で、この中で改良等の計画がある路線については1級町道上有住駅前線だけとなっている。

県道は、県道釜石住田線と県道上有住日頃市線の2路線がある。県道釜石住田線の改良が進んでおり、大型観光バスの運行による観光客の増加、救急車到着の時間短縮などの利便性増大が期待される。県道上有住日頃市線については、住田町側の改良は進んでいるが、大船渡市側の改良が進まず海岸と滝観洞の観光ルート構築や救急車等の通行、通勤などに支障がある現状となっている。

上水道関係

五葉地区の現状は、生活用水として沢水や井戸水を利用し生活している。その中で、特に飲料水の確保が困難な中埴地区を中心とした桧山、中沢、土倉の各一部も含めた地区を、給水区域とする五葉簡易水道事業が、平成18年度から事業着手され、平成20年度の供用開始を目指し事業が進められている。この給水区域以外でも、現在の集落水道施設が老朽化したり、維持管理をすることが、住民の高齢化により困難になっている地区も多数ある。

東北横断自動車道

岩手県釜石市と秋田県秋田市を結ぶ道路で、高規格道路として建設が進められており、釜石市 - 遠野市間は、国道283号仙人峠道路の改良として工事が行われている。そのうち釜石市 - 住田町間は「仙人トンネル」が、住田町 - 遠野市間は「滝観洞トンネル」が築造され、平成19年3月に一部供用開始見込みである。

(5) 産業

農業

2000年農業センサスによれば、五葉地区145世帯の内、農家総数は97戸で、地区の世帯数の66.9%である。これは、町全体の43.8%を大きく上回っており、他の地区と比べて農地を所有し農業を営んでいる世帯が多いことを示している。農業従事者の平均年齢は58.7歳で、町平均を2ポイント上回り、年々高齢者世帯農家の割合が増えてきている。

一戸あたりの経営耕地面積は、町平均の 54.9a を上回る 64.5a となっているものの、農家の高齢化が進み耕作できない農地が年々増大してきており、耕作放棄地を持つ農家の率は、町平均 47.4% を大きく上回る 56.7% となっている。

農作物販売については、葉たばこ・いちご・水稻の順となっており、町農業の特徴である畜産経営を含めた複合経営農家は見られない。

五葉地区においても、中山間地域の特徴である耕作条件不利地の耕作放棄が拡大している中で、中核農家への農地の利用集積は難しく、経営規模拡大を阻んでいる。また、年々高齢化が進む中、労働力を必要とする集約的作目導入による複合経営なども難しい状況である。

林業

五葉地区の森林面積は、国有林を除いて県有林 179ha(5.3%)、町有林 2,061ha(61.5%)、私有林等 1,112ha (33.2%) の 3,352ha となっている。私有林の人工林率は 35.4% となっており、多くが広葉樹の天然林で占められている。

私有林の齢級別面積では、スギ・アカマツ等の人工林で、36 年生以上の面積が 53.5% に達しているが、木材価格の低迷等により、生産間伐や主伐を先送りする状況が続いている。広葉樹の天然林では、36 年生以上の面積が 95.4% 占めているが、このことは、昭和 40 年代初頭まで炭焼きが盛んに行われたことによるものと思われる。

五葉地区の特色は、全体の 60% 以上を占める町有林の人工林率が他地区に比べ低いということもあり、人工林率が低く、人工造林の植林に適さない土地が多くあることを示している。その反面、広葉樹の面積が多く、高い蓄積率を示している点にある。

林業は、生産・就労を含めて昔からこの地区の基幹産業であり、木材価格の低迷等がこの地区の林業振興の不振に一層の拍車をかけている。

(6) 観光

本地区は、町の代表的な観光資源である“洞内滝落差日本一”の滝観洞と県立自然公園である五葉山を有している。

しかし、大型バスが入りにくい道路環境に加え、行き止りであることがネックとなり、滝観洞については、ピーク時の 8 分の 1 にまで入込客を減らしている。また、五葉山においては、大型バスが乗り入れ可能であり、ハイキング向きで比較的登りやすい大船渡側の赤坂峠コースに集客を奪われている。

本町の桧山口登山道は、近年「あすなる山荘」の整備や森林浴まるごと体験の実施などで知名度が上がってきているものの、険しい登山道なので一部登山者の利用に止まっており、いずれも、その資源が十分に活用されていない。

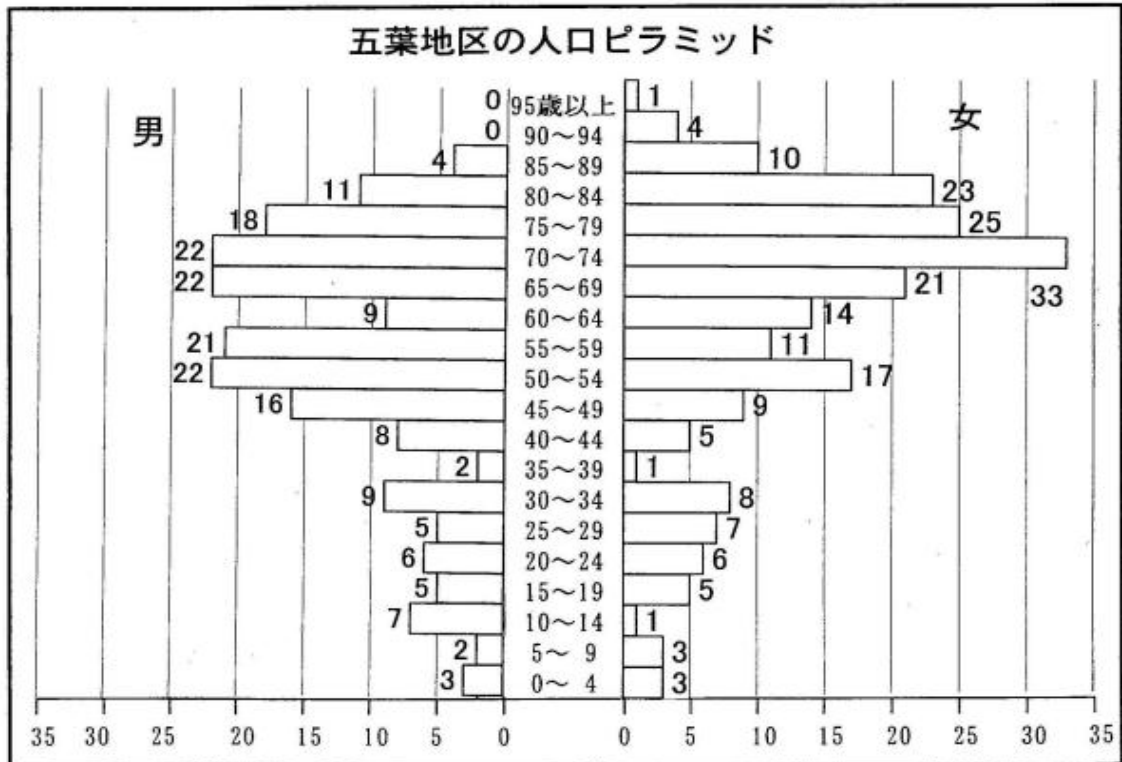


五葉地区年齢別人口

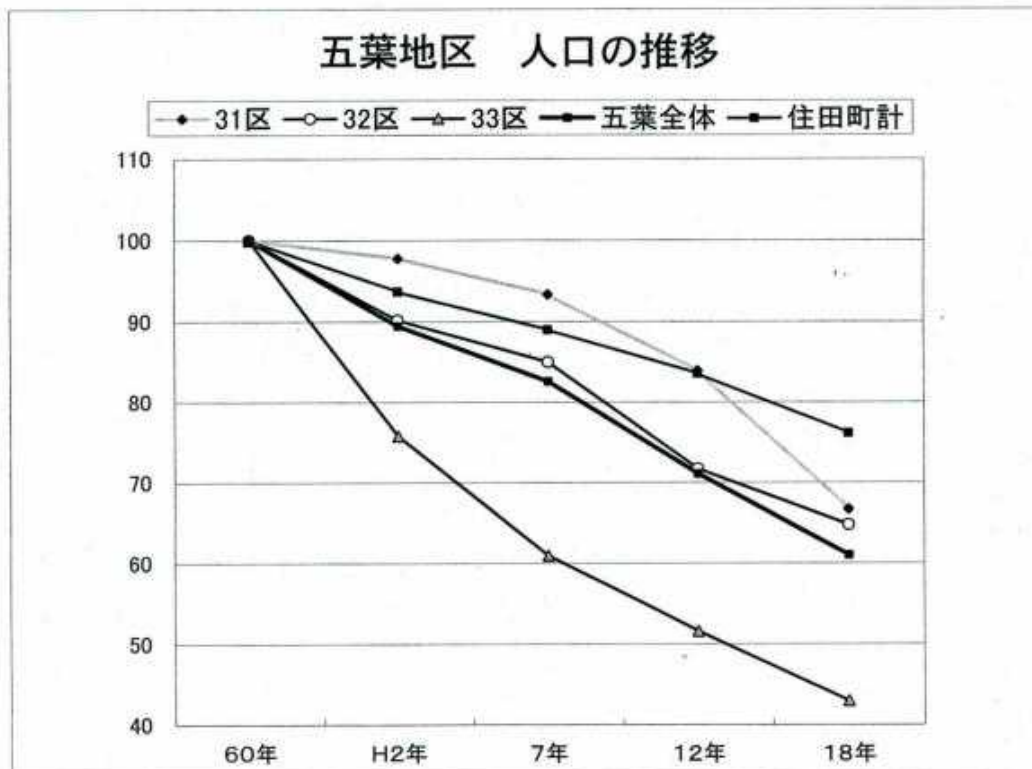
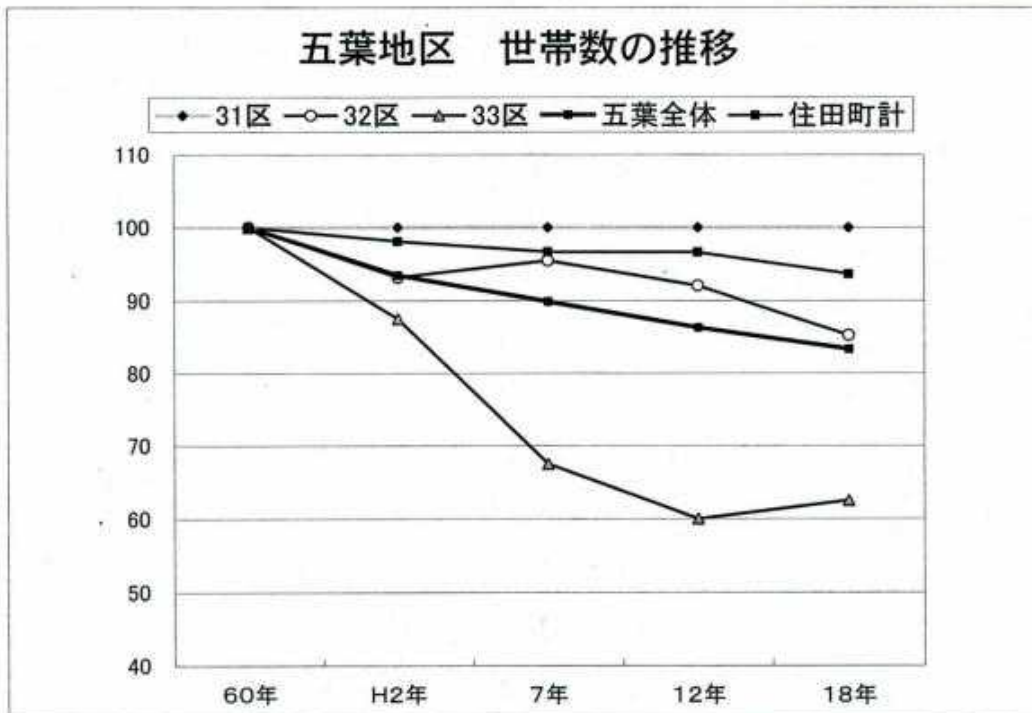
単位 = 人

平成18年10月現在

行政区 年齢	31区		32区		33区		男計	女計	男女計
	男	女	男	女	男	女			
95歳以上	0	0	0	1	0	0	0	1	1
90～94	0	2	0	1	0	1	0	4	4
85～89	1	3	2	6	1	1	4	10	14
80～84	3	8	5	8	3	7	11	23	34
75～79	8	5	9	16	1	4	18	25	43
70～74	5	11	15	18	2	4	22	33	55
65～69	5	3	16	15	1	3	22	21	43
60～64	3	5	4	7	2	2	9	14	23
55～59	9	3	9	6	3	2	21	11	32
50～54	10	7	9	9	3	1	22	17	39
45～49	3	3	11	5	2	1	16	9	25
40～44	4	1	2	3	2	1	8	5	13
35～39	0	0	2	1	0	0	2	1	3
30～34	3	3	6	4	0	1	9	8	17
25～29	2	1	3	5	0	1	5	7	12
20～24	1	1	3	5	2	0	6	6	12
15～19	0	1	3	3	2	1	5	5	10
10～14	3	0	4	1	0	0	7	1	8
5～9	1	1	0	2	1	0	2	3	5
0～4	0	1	3	2	0	0	3	3	6
計	61	59	106	118	25	30	192	207	399



昭和60年対比 = %



五葉地区の高齢者の状況

(単位:人、%)

区分	人口	65歳以上人口		介護保険該当者		虚弱		寝たきり		痴呆	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
住田町	6,890	2,552	37	404	15.8	233	9.1	66	2.6	70	2.7
五葉	406	191	47	24	12.6	12	6.3	4	2.1	2	1
31区	124	55	44.4	7	12.7						
32区	223	108	48.4	12	11.1						
33区	59	28	47.5	5	17.9						

(平成18年4月1日現在、地域包括支援センター調べ)

滝観洞観光客入込数

(単位:人)

区分	昭和55年	昭和60年	平成2年	昭和7年	平成10年	平成15年	平成16年	平成17年
県内客	20,047	28,745	10,317	8,826	3,968	4,535	2,833	2,535
県外客	8,514	19,069	13,596	8,765	7,969	7,308	5,279	4,727
計	28,561	47,814	23,913	17,591	11,937	11,843	8,112	7,262

(町産業振興課)

五葉地区の民有林の現況

区分	県有林	町有林	私有林等	計
面積(ha)	179	2,061	1,112	3,352
蓄積(千m ³)	33	338	278	649
人工林面積(ha)	147	477	561	1,185
人工林率(%)	82.1	23.1	50.4	35.4

(町産業振興課)

五葉地区の民有林年齢別面積

(単位:ha)

区分	5以下	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61以上	計
人工林	0	3	1	40	103	166	239	143	109	221	85	50	26	1,186
天然林	0	3	13	17	22	8	33	309	466	337	369	233	289	2,099
計	0	6	14	57	125	174	272	452	575	558	454	283	315	3,285

(町産業振興課)

五葉地区の民有林樹種別面積

(単位:ha)

区分	針葉樹					広葉樹			合計
	スギ	アカマツ	カラマツ	ヒノキ	小計	ナラ	その他	小計	
人工林	544	383	254	0	1,181	0	5	5	1,186
天然林	0	34	0	0	34	44	2,021	2,065	2,099
計	544	417	254	0	1,215	44	2,026	2,070	3,285

(町産業振興課)

2 これまでの五葉地域づくりの総括

「豊かな田舎暮らしをアピールして交流人口を増やそう」「特産品開発や観光資源で産業振興・雇用の場を創出しよう」「一人ひとりが地域の一員として地域づくりに参加しよう」を基本方針として、各種事業を実施してきた。

(1) 実施期間

平成 15 年度から平成 18 年度までの 4 年間

(2) 実施内容

地域資源調査事業

- ・ 地域資源調査の実施
- ・ 現地調査とマップ用写真撮影
- ・ 資源マップの製作
- ・ 五葉地区 P R 用パンフレットの作成
- ・ 案内看板の設置

四季の写真館整備事業

- ・ 地区公民館内に四季の写真館を整備
- ・ 滝観洞観光センターへの分館設置
- ・ P R 用に出前写真館の開催

景観整備事業

- ・ 地区公民館周辺に桜とツツジの植栽
- ・ 大洞桜並木の整備
- ・ 寒倉・大滝周辺整備（遊歩道の整備）
- ・ 桧山川沿いの遊歩道整備の検討

五葉地区活性化事業

- ・ 五葉スポ - ツ秋祭りの開催
- ・ 宮城県志津川町「校舎の宿さんさん館」視察
- ・ おにぎり談義の開催
- ・ 仙人峠道路工事現場等の見学

(3) 事業実施の成果

住田町総合発展計画後期基本計画の中で示された、地区別計画の推進のために五葉地域づくり委員会の組織を結成し、各種事業を実施してきたが、この組織の結成により、寒倉、五葉中、大洞の三つの地区が一体となって各種事業に取り組むことが出来た。

中でも事業実施においては、140戸足らずの集落において100名を超える参加者など、常に自分たちの地域づくりのためという前向きな姿勢で、あくまでも地元主導での取り組みがなされた。その結果、「地域資源の再発見」・「地区の一体感の高まり」・「秋祭り等を実施したことによる自信と誇り」などがもたらされたことが最大の成果といえる。



3 これからの五葉地域づくり計画

キャッチフレーズ

- 地域の協働・自然との共生による新たな可能性 -

「地域づくりのための2つの基本方針」

地域の協働 「一人一人が地域の一員として地域づくりに参加しよう」



自然との共生 「きれいな水・・・みずみずしい緑・・・新鮮な空気」



この自然からの恵みを誇り・大切にしよう

(1) 地域の協働

<基本方針>

「一人一人が地域の一員として地域づくりに参加しよう」

<課題>

この地区は元々人口が多い地区ではなかったが、道路整備の立ち遅れにより通勤圏が制限され、就労機会が少ないことから人口が流出したため、少子化とともに高齢化・人口減少が著しい。そのため、地区民運動会等の行事等の開催頻度や規模が小さくなるなど、地区内の活気が乏しい状況にある。

また、権現舞・念仏剣舞・鹿踊り等の伝統芸能や竹細工等の工芸技術が伝わっているが、若者層の流出と少子化により後継者が少なく指導者も高齢になっているため、その伝承と保存が急務となっている。

<施策の方向>

住民が一丸となって自分たちで共に生きる五葉地区を目指して、地区民に「結い」の定着を促し団結力を強化するため、懇談会や地区民行事を企画・開催する。

伝統芸能については、集落単位での伝統芸能の伝承活動には限界があるので、集落共同で指導者育成を進めることと平行して、後継者の対象を地区内の人間に限らず後継者の裾野を広げる。また、伝承者による口伝が主な指導方法であることから、伝承者が途絶えた場合に備えて映像記録等を保存する。

竹細工やわら細工等の工芸品については、地区民に留まらず観光客や体験学習客も対象に技術指導を行うとともに、生産技術が途絶えることのないよう資料等を保存する。これまでのような自家消費程度ではなく、産地直売所等での販売に応えられるよう量産体制を整える。

<主要施策>

1. 地区民懇談会（おにぎり談議）の開催
2. 「結い」の精神の普及・啓発活動
3. 郷土芸能伝承活動
後継者確保の啓発活動（五葉秋祭り）
映像記録や資料の保存
4. 工芸・技能伝承活動
特産品等、製造・販売を目的とした自主運営組織の育成
竹細工等の工芸品指導者確保・製作指導
映像記録や資料の保存
遊休農地を活用した薬草、山菜等の栽培・製品化指導

(2) 自然との共生

<基本方針>

「きれいな水・・・みずみずしい緑・・・新鮮な空気」

この自然からの恵みを誇り・大切にしよう

<課題>

資源調査を実施し、誘客のため、景観整備や案内看板の設置、四季の写真館の整備を実施してきた。

しかし、すばらしい地域資源はまだまだ豊富にあり、それらを埋もれさせないように工夫しながら整備し、地域の癒しの場を創出するとともに、多くの観光客が訪れるような対策を実施していく必要がある。

また、他県からの釣り人等が置いていくゴミや、今後見込まれる観光客の増加による環境への悪影響についても検討していく必要がある。

その一方、地区全体に休耕田などの遊休農地が多く見かけられ、昔ながらの農村風景が保てなくなっている。

<施策の方向>

豊かな自然を守り、住み慣れた環境を大切にしながら、地域資源である景観を整備するとともにピーアールし、誰が来ても「ホッ！」とする地域を作る。

また、五葉地区公民館を拠点として、観光資源である五葉山や滝観洞と地区内の景勝地を線をつなぎ、町内外からの来訪者の増加を図る。

<主要施策>

1. 景観の保全活動

桜並木の植樹・保育作業

定期的な河川の清掃・草刈り作業

ゴミ捨て等環境保全に関する意識啓発

2. 新たな観光戦略の展開

体験農場、体験学習機能の整備

景勝地の整備及びPR活動

四季の写真館整備

地域資源PR事業（案内表示板の設置）

五葉のイメージづくり、新たな観光ルート構築等調査研究

3 最重点課題 - 地域づくりにおける五葉地区公民館の役割 -

五葉地区公民館（旧五葉小学校）は、五葉地区の中心部に位置し、校庭・体育館等の設備があり、従来から各種イベントが開催されるなど地区民の集まりの場所となっている。このことから、五葉地域の地域づくりを推進するためには、五葉地区の中心として、またシンボルとして、五葉地区公民館の果たす役割は大きなものがある。しかし、現在の施設では期待する役割を果たすことは困難なことから、早急に対応できる施設が必要である。

<期待する役割>

1．地域の拠点

- ・教養の向上、健康及び社会福祉の増進、生活文化の振興

2．高齢者の生きがいづくりの拠点

- ・炭焼き、山菜取り、そば蒔き等田舎暮らしの達人育成施設
- ・各種インストラクタ - 活動施設

3．郷土芸能の伝承拠点

- ・郷土芸能等共同伝承活動施設
- ・記録保存、展示施設

4．特産品開発拠点

- ・ざる、かご等工芸品製作販売施設
- ・羊羹、凍豆腐、漬け物、山菜料理等食品製作販売施設

5．観光施設のインフォメ - ション拠点

- ・五葉山、滝観洞、阿弥陀堂等ガイドインフォメ - ション施設

6．交流・体験拠点

- ・農業体験施設
- ・鎧製作体験施設



4 地区計画策定の経過

平成18年 5月 2日	第1回五葉地区担当職員会議（農林会館）
5月 9日	第1回五葉地区別計画策定会議（五葉地区公民館）
5月22日	第2回五葉地区別計画策定会議（五葉地区公民館）
6月22日	第3回五葉地区別計画策定会議（五葉地区公民館）
8月24日	第2回五葉地区担当職員会議（農林会館）
8月30日	第4回五葉地区別計画策定会議（五葉地区公民館）
10月22日	五葉地区別計画策定に係る講演会（五葉地区公民館）
11月 6日	第3回五葉地区担当職員会議（農林会館）
11月 7日	第4回五葉地区担当職員会議（農林会館）
12月 6日	第5回五葉地区担当職員会議（農林会館）
12月11日	第6回五葉地区担当職員会議（農林会館）
12月13日	第7回五葉地区担当職員会議（農林会館）

5 地区計画策定委員名簿

委員長	藤井盛	五葉地区公民館長
副委員長	金野光男	寒倉自治公民館長
〃	紺野忠男	五葉中自治公民館長
〃	紺野寿幸	大洞自治公民館長
委員	坂井茂夫	寒倉自治公民館推薦
〃	菊田信一	寒倉自治公民館推薦
〃	菅野好美	寒倉自治公民館推薦
〃	紺野勉	五葉中自治公民館推薦
〃	紺野和則	五葉中自治公民館推薦
〃	高萩久之	前五葉中自治公民館長
〃	坂井清	前寒倉自治公民館長
〃	紺野寿美	前五葉地区公民館長
〃	紺野好子	五葉地区公民館主事

地区担当職員

遠藤誠	町民生活課課長補佐
千葉隆弘	農業委員会事務局長補佐
水野豊	税務会計課税務係長
紺野栄子	保健福祉課保健師長
千葉純也	産業振興課林政係長
山内孝司	建設課主任技師
千葉透	学校給食共同調理場係長
佐々木淳一	総務課主任
若嶋和絵	産業振興課（緑のふるさと協力隊）

地区出身町職員

藤井まゆみ	上有住小学校主任用務員
佐々木喜之	町づくり推進課主事
藤井剛	総務課主事（気仙広域連合派遣）
高萩政之	町づくり推進課主事
泉田香	世田米保育園保育士
荻野映理	総務課主事